

# 森のおくりもの11月



イヌブナ（ブナ科）



暖かい日によわよわしく動いている昆虫たちとは対照的に、活発な野鳥たちが目につくようになってきました。群れて行動するようになった鳥の他に、高い山から下りてきた鳥や、北の国からやってきた鳥も目につくようになりました。このあたりでも紅葉が始まり、早いものでは落葉し始めています。うっそうとしていた林も、すこしずつ明るくなってきました。草木の実や色づいた葉にスポットライトの様に光が当たっているのを見つけるとうれしくなります。紅葉の見ごろは中旬になるでしょう。

【写真・文 早坂 徹】

# 虫こぶ

## ヌルデミミフシ



虫こぶの名前は基本的に「植物の名前」「場所」「形」フシ という順番でついています。ヌルデにつく耳のような形のフシ（虫こぶ）ということで**ヌルデミミフシ**。みはらしの道のカ19付近にあるヌルデを見上げるとたくさんついていました。上ばかり見ていると下に落ちていた虫こぶをうっかり踏んでしまい、潰してしまったと思いましたが、もう出た後のものでした。中には飛ばずに残っていた**ヌルデシロアブラムシ**の姿が数匹見られました。

10月末～11月になると虫こぶに穴があき、そこからアブラムシたちが出てきます。ヌルデがここにタンニンを溜めるので、昔はこの虫こぶを乾燥させ粉にして酢酸鉄を合わせ、お歯黒などの黒染料として使っていました。（空五倍子色うつぶしいろ）

先が割れて中から翅を持ったアブラムシが出てくる。

■中に残っていたアブラムシ  
内部にいる間は翅を持たないが、10月にできる子供は翅をもち、越冬場所のチョウチンゴケの仲間を目指して飛び立つ。たどり着いたら翅のない子供を産み役目を終える。

■中の様子  
たくさんのアブラムシ（ヌルデシロアブラムシ）が入っていた。写真は出た後。単為生殖で増えた子供たちなので、みんなクローン白い粉のようなものは蠟物質

ヌルデの葉には翼（よく）がついているので探すのは簡単。



ヌルデには、他にも違う種類の虫こぶが付きます。

●ヌルデハベニサンゴフシ ●ヌルデハイボフシ

【レンジャー：黒川周子】

\* 虫こぶ・・・動物が植物に寄生、強制し産卵した結果、植物体の一部がこぶ状に発育したもので、中えい（ちゅうえい）または、ゴールともいう。

# 11月の生物ごよみ

観察の森周辺も10月末頃から一気に秋が深まり、木々も色づき始めました。このあたりの紅葉は奥山より遅く、例年ですと11月初めから中旬にかけてが見頃になります。

秋の草花たちも、リンドウやキッコウハグマが若干残る程度になりました。今年の太白山の花ごよみもこれで終わり、早春のマンサクやセリバオウレンまでお休みに入ります。

そうそう！！センター前の広場で季節外れに咲いたアリアケスミレを見つけました。タチツボスミレやマキノスミレはたまに見かけますが、アリアケスミレは初めてです。



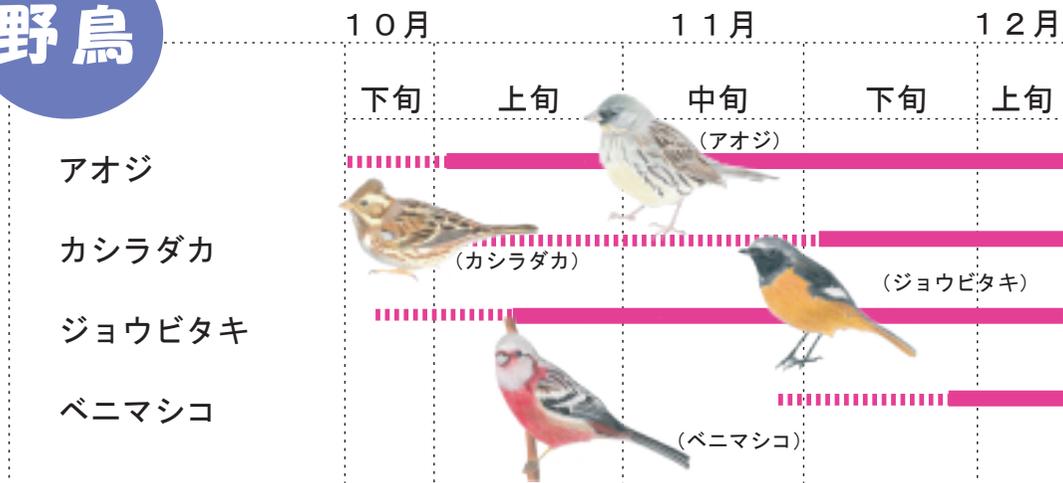
10月25日撮影 アリアケスミレ

毎年、この時期になるとドングリの実り具合を書くのですが、今年は豊作とは言えないようです。豊作の時は森を歩くと一面にドングリが落ちていて、踏んでしまうと滑って転んでしまいそうな状態になります。去年は豊作でしたが、これに関しては不定期で1年おきに豊作、不作が来るなどとは決まっていないようです。

秋の鳴く虫たちも、エンマコオロギやヤマトヒバリなどがまだ寂し気に鳴いています。一時期、騒がしかった秋の夜に懐かしさを感じます。

野鳥情報は、センター駐車場で10月25日に冬鳥の一番手、ジョウビタキを確認しました。『ヒッ ヒッ ヒッ』と鳴いていたのは綺麗なオスの個体でしたよ。翌日26日にはカシラダカも確認できました。これから続々と冬鳥たちがやってくるので目が離せません。

## 野鳥



【レンジャー：齋 正宏】

# 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

## 『行雲流水（こううんりゅうすい）』

秋が深まり、澄み渡る青空に白い雲がゆっくり流れ、のどかで爽やかな空になってきました。「天高く馬肥ゆる秋」といいますが、秋になって太ってきたなあと感じるのは馬ではなくて私の体重、それと蜘蛛（クモ）。最近ジョロウグモやコガネグモなどのクモがよく目に付きます。これまでたくさん食べてきたのでしょうね。おなかがつっくりしてとても目立ちます。

クモの生態は種類により様々で、食べ物の捕り方も異なります。私は、網を張り獲物がかかるのを待ち伏せするタイプのクモを見て、いつ来るのか、来ても網にかかるのかわからないので、生き抜けるのは運命次第、成り行きに任せた生き方をしている、すごい精神力だと感心しました。

このことから感じた『行雲流水』という言葉を見つけました。これは「空を行く雲や流れる水は、一定の形を持たず自然に移り変わってよどみがない」ことから、「物事に深くこだわることなく、ただ自然の成り行きに身を任せること、自然体で暮らし何事にも執着しない」という意味です。

この言葉のようにクモは、まるで悟りの境地に達しているような考え方をしていると感じました。辺りをよく見て観察し、獲物が多く通ると予想してわなを仕掛けているのだろうけど、上手いかないことや鳥などの天敵に襲われることもあり、全てが生き残れるわけではありません。「やれる努力は全てやったのであとは天に任せる」という思いで頑張っているのではと感じました。

私もクモの生き方を見習い、準備や努力は怠らずにやるけど、「何とかかなるさ！」と気楽に生きて行こうと思いました。 【レンジャー：新田隆一】



# 森の「おとしもの」



## その7 「森のサンゴ」

「あ！サンゴだ!!」

10月のガイドウォークの時に“おとしもの”（右の写真一枚目）を見てそんな声があがりました。なるほど！確かにサンゴそのものに見えます。その表現が印象的でとりあげました。

これって一体何者でしょう？初めての人は想像つかないかもしれませんね。ヒントに二枚目の写真。黒いつぶつぶが植物の実だと気づけばかなり答に近づきます。正体はミズキという樹の仲間の花軸（花をつける枝）です。花が咲いて実がなり、その実も食べられたり落ちたりして軸だけが残った姿です。ちなみにこの実は鳥たちの大好物。先日はアオゲラが食べていました。

ところでミズキの仲間ですがミズキとクマノミズキがあります。どっちなのかは葉のつき方で見分けられます。ミズキは葉はたがいちがいにつき（互生）でクマノミズキが向かい合っにつきます（対生）。“おとしぬし”の樹は背が高く枝先ははるか頭上でしたが、双眼鏡で確認したら向かい合っについていました。正体はクマノミズキでした。

でもやっぱり「サンゴ」に見えますね。



【レンジャー：木田秀幸】

# 11月

## のイベント & お知らせ



### ◆『草花あそびしよう』

- ・未就学児と保護者向けの草花遊びを中心とした自然観察会です。

【日 時】平成30年11月17日（土）10：00～11：30

【定 員】15名（未就学児とその保護者）

【持ち物】歩きやすい服装、雨具（カッパ）

【申込み】11月6日（火）9：00～電話で〔先着〕



### ◆『館長と森を歩こう』

- ・館長と一緒に秋深まる紅葉の森を歩きながらいろいろな生き物と触れ合います。

【日 時】平成30年11月25日（日）10：00～11：30

【持ち物】歩きやすい服装、雨具（カッパ）

【申込み】不要



毎週  
日曜は

### 『ガイドウォーク』の日！

開催日：4日、11日、18日、25日

開催時間：午前 10：00～11：30

午後 13：30～15：00

今月のテーマは  
『森と野鳥たち』



### 森のちいさな アトリエ

準備してある材料を使って、誰でも自由にクラフトが作れます。

10・11月は  
くすみ・クラフトです。



ヤマツツジの丘からヨシの湿地へ通じる橋が老朽化のため、しばらくの間通行止めになります。

### 11月の休館日

5日、12日、19日、26日

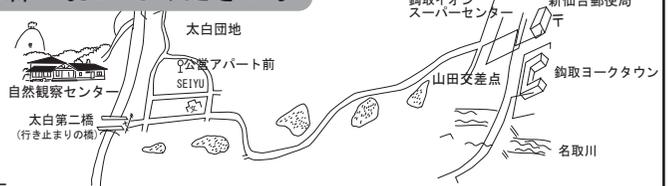
#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
（※③のみ乗車可「太白団地 山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」）  
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

#### ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで！

2018年11月号（毎月1回5日発行）

発行：（公財）仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel：022-244-6115 FAX：022-244-6133

「社のひろば」URL：<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>